**週刊やすいゆたか66号13年１月10日**

**愛なき時代に生まれたわけじゃない**

齋藤和義「やさしくなりたい」、紅白で一番ひっかかった科白が「愛なき時代に生まれたわけじゃない」。伝えたい愛があるのに心が結ばれないもどかしさが伝わった。アンジェラ・アキの『手紙』も大人の自分に手紙を書くしかないのたが、今の若者の孤独は痛ましい。

齋藤は「ずっと好きだった」という自曲の替え歌で「ずっとウソだった」を作り、反原発のメッセージを発してきた、彼の思いは伝わり、国民の九割は原発ゼロに賛成だという。しかし総選挙で過半数とったのは何と原発推進派の自民党ではないか。これにはもどかしいいたたまれない気持ちになるのも無理はない。

　　　　**鏡餅がみられなくなった**

この頃正月に見なくなったのが鏡餅です。あれは正月様にお供えするものだと言われていますが、正月様とか歳神様というのは穀物神なのです。ですから鏡餅は正月様にお供えするというのではなくて、本当は正月様のご本体なのです。

鏡餅に手を合わせますが、穀物に感謝し、おいしく命をいただいて、豊穣をお願いするわけです。鏡餅をいただくのは神を食べる聖餐なのです。凝ったおせち料理やお神酒も神様ですが、元々床の間にはきちんと鏡餅をお祀りするのが日本の伝統です。

笠子地蔵という民話で「正月様がいらっしゃるというに餅この用意もできとらん」というセリフがありますが、鏡餅がないと正月様自体がやってこれないということなのです。私の場合は糖尿病を抱えているので餅もお神酒もほどほどに節制して、たまねぎ様の御利益に授かる必要がありますが。

**１．新生『プロメテウス』新たな運営方針**
（１）プロメテウス(先立つ思考)という名で象徴されていますが、「時代を拓く知の総合サイト」を目指します。ただし古典的な思想、プリミティブな思想こそ時代を拓くという歴史知的発想も含意してのことです。それで時事問題、哲学・思想、社会科学・人文科学はもちろん評論・エッセイ・小説・戯曲・短歌など 文学作品も、内容的に「時代を拓く知の総合サイト」に相応しいものなら掲載します。
（２）『プロメテウス』の編集同人を募集します。編集同人は自分の原稿および一般読者の原稿を投稿する資格があります。そのほか、一般読者の 直接投稿用の窓口を設置します。それについては各分野の編集責任者が掲載の可否を判断して掲載します。
（３）定期刊行制はやめまして、随時追加方式をとります。紙媒体ではないので、発行日を限定する必要はないからです。編集同人は投稿を依頼さ れた原稿を１ 週間以内に投稿することにします。一般読者が投稿窓口に直接投稿した原稿については、各分野の編集責任者(当面は編集長)が１週間以内に掲載 するか、掲載 の可否を当人に通知することにし、掲載が遅れる場合は何時頃になるか目途を通知することにします。
（４）編集同人の数は、立ち上げ当初は多すぎると混乱が予想されますので、原稿の集まりに比例して増加さ せていくことにします。各分野（カテゴリー）の編集責任者は１名としますが、実情を見て変更を考えます。
（５）カテゴリー分類は次のものです。１時事評論、２哲学・倫理・宗教など思想系、３社会科学系(経済・経営・政治学・法学・社会学など)、 ４人文科学系 (地理学・歴史学・心理学)、５教育問題、６文学芸術系 。各カテゴリー担当の編集責任者を編集同人から選任します。 なお立ち上げ当初は編集長が編集責任者を兼任します。
（６）サイト運営は、通常はＷＥＢ上に設置する編集同人間のメーリングリストを利用して行います。そのほか、オフラインでの編集委員会は年１ 回、東京と大阪で交互に開催します。その際に『プロメテウス』主催の講演会やシンポジウムなどのイベントも開催します。ただし編集同人はチャットでも参加 できるようにします。
（７）『プロメテウス』編集委員会については次のようになります。
①編集委員会は、共同編集長やすいゆたかと石塚正英、各分野の編集責任者(当面は編集長兼任)、編集同人によって構成されます。
②編集委員会は、共同編集長と各分野の編集責任者を選任します。
③編集同人になるには正式には編集委員会の承認が必要ですが、共同編集長両者の合意があれば編集委員会まで暫定的に編集同人としての権限を行 使できます。なお、編集同人を辞任する場合は、前もって編集委員会にその意思表示を行なうこととします。
④編集委員会は年１回東京と大阪で交互に開催することにします。
⑤編集同人は直接参加できなければ、チャットでも参加することができるようにします。
⑥どうしても参加できない場合は、編集長に委任する旨メールで通知できます。
⑦編集委員会の決議は多数決で決まります。
⑧編集委員会を開催する際に、『プロメテウス』主催の講演会やシンポジウムなどのイベントを同日に開催することを慣例とします
⑨サイト運営にかかる支出（経費や労力）は、当面のところ広告入りの無料ソフトWordPressの活用と関係者間のボランティアに依存することになります

**ビジネスマンのための西田哲学入門13**

**13、「経験あって個人がある」をビジネスに応用すると**

　「個人あって経験がある」という捉え方に対して「経験あって個人がある」という捉え方を西田は強調したわけですが、これはビジネスマンの立場からは役に立つ捉え方でしょうか？
　ビジネスマンは、このように二つの対極的な捉え方がある場合に、どちらの捉え方が正しいか、予め決めて、正しい方を採用するというわけにはいきません。ケースバイケースで、状況に応じた捉え方をすべきてしょう。
　「個人あって経験がある」ということで、キャリアのある人材を登用したり、それぞれの個人に必要な経験を、各自の個性と能力に見合う正しい順序でつませていくことが必要です。

　他方で、ビジネスは個人の営みに還元できません。企業には経験の積み重ねがあり、培ってきた企業文化があります。それで商品の品質に個性が生まれ、顧客に支持されてきたので、生き残っているということがあります。そのことを忘れて、安易に労働力を流動化させ、臨時職員中心の不安定雇用にしてしまいますと、顧客の支持を失って、売れ行きが落ちてしまうこともよくあるのです。

　逆に労働力の流動性が全くないと製品が固定してしまいますから、伝統菓子ならともかく、業界の技術向上についていけなくなって、凋落してしまいます。経験というのも業界全体の経験もあり、グローバルな経験というのもあるわけです。情報の交流や人材の交流によって、常に経験を革新し、積み上げる努力も必要ですね。

　「個人あって経験がある」という立場ですと、どうしても考える主体、意識主体が個人だということに囚われがちです。個々の個人が独立して、自分の能力でアイデアを考え出すようにみなされてしまいますね。そういう面も確かにあるでしょうから、才能を競ってもらい、個性的な知識創造を行ってもらうことも必要です。

　しかし個性の塊みたいな服飾デザインの世界でも、鬼才が互いに刺激し合って、新しい流行を生みだしているのです。個々のデザイナーは独立しているようで、互いに差別化し合うことでシェアを占めるわけで、そこには相互にアイデアの枠を与えあっていることになります。それはやはり、「経験あって個人がある」という面も否定できないということです。

　知識創造は時に、画期的なアイデアが突然浮かぶことがあります。それは本人もどうして思いついたのか分からないことも多いものです。それはその人の個人的な事情も関わっているでしょうが、やはり組織的な社会的な知識創造の流れの中で、その人に現れたということではないでしょうか。

　そんなことを言うと、青色発光ダイオードの発明で、その発想の利益配分で裁判になりましたが、その企業の研究体制の中で生まれたのだから、その利益は企業中心にすべきで、発案者に対する報償金は雀の涙ほどでいいと言いたいのかと誤解されそうですが、そんなつもりは毛頭ありません。やはり「個人あって経験がある」という面を忘れては、みんなやる気をなくしますからね。

　ただビジネスの世界では、いかに画期的な知識創造でもそれが利益を生まない限り、評価されません。『善の研究』の場合は、それを学界が評価したので、西田はそれで定職を得たわけですね。別に当時は定職につくだけなら、本としては売れなくてもいいわけです。

　でも『愛と認識との出発』でさらに世間の注目を浴びて、『善の研究』もヒット商品になり、西田の名声は最高になったわけです。

　逆に言えば、どんなに画期的なものを書いていても、世間がそれほど評価しなければ、埋もれてしまいます。哲学者の場合、キルケゴールは親の遺産を使い果たして、著作を出し、死後ドイツ語訳が売れたようです。ニーチェの『ツァラトゥストラはかく語りき』も生前はたいして売れなかったようですね。マルクスも貧乏のままで、妻の親の遺産で何とかなっていたようです。彼が百歳位まで生きていたらきっと大金持ちになっていたでしょう。

　ですからビジネスの世界では、知識創造を利益に結び付けるための知識創造が必要で、企業はそれをどう組織的に行えるかで、企業がサバイバルできるかどうか決まってくると言えるでしょう。

　それから「経験あって個人がある」という場合の経験は、純粋経験なので、それは個人が主体としてする意識経験というよりも、経験としての事物を意味しているとも捉えられます。

　我々は経験するという場合、機械を使って生産したり、車で輸送したり、衣食住で生活しているわけです。その際に過去の労働は機械や車や食料・衣服・住居・嗜好品・装飾品・家具や器材などの物として現れています。それらを使用するのが経験です。事物は死んでいるわけではなくて、人間の活動として経験として存在しているのです。つまり純粋経験しているのです。そして個人はそういう事物経験として実存していると言えるでしょう。

　事物経験とは、パース的に言えば事物が他の事物を指し示す記号だということになるので、それこそ人間だということになりますね。ですから経験は人間としての事物の経験であるという意味で、個人だけの経験ではなく、共同の経験であり、経験の継承でもあるわけです。その意味でも「経験あって個人がある」ということが言えます。

知識創造というのは、単に研究所や生産現場からだけなされるのではなくて、生産・流通・消費の循環の経験全体から生まれてくるのです。それを研究所だけの、優秀な頭脳だけから生まれると捉えていると、たちまち知的創造の泉は枯渇してしまうでしょう。

**やすいゆたか短歌集106～128**

**スーパー狂言『王様と恐竜』に寄せて**

**106水爆とカネさえあれば大丈夫，正義の理屈はどうとでもなる**

**107正義持つ国に逆らう国あらばうちてしやまん正義のために**

**108一週間あれば済みます爆撃は、敵の心（しん）つくピンポイントで**

**109探しても見付からぬのは何ゆえか、見付からぬよう隠したるゆえ**

**110曖昧で言挙げせぬは月の国、されど出します国際貢献**

**111人間は恐竜なるか現し世の、破壊し尽くし、仲間食い合う**

**自衛隊のイラク派遣に寄せて**

**112米兵もエスケープする戦場になどて出かける自衛の隊員**

**十二月六日（土）**

**便秘に寄せて**

**113このウンチ身を捩じらせて気張り出すその力（りき）あらばなお一日を**

**十二月七日（日）**

**昨夜忘年会での梅原猛**

**114驚けリ我に代わりて歌詠める人は君だけ御大破顔**

**十二月八日（月）**

**法隆寺と死の原理**

**115死を意味す、偶数で建てるその理由（わけ）は、怨霊封じ、他に何ぞや**

**薬師如来像と釈迦三尊像**

**116釈迦なれど僧衣まとわずおわします、その本心は太子祀れり**

**極楽往生の場所**

**117いでまじき閉じ込め祀る御寺こそ御仏います往生楽土よ
十二月九日
夢殿救世観音像の謎**

**118太子骨持てる観音厨子の中布巻かれたり五百ヤードの**

**怨霊の狂乱の舞**

**119狂乱の舞を舞たる聖霊会時をはじきて太子現る**

**「パース『人間記号論の試み』について」に寄せて**

**ホッブズの意義と限界**

**120集団を人と捉えたホッブズもそこに事物は加えざりしか**

**身体主義的人間観の克服**

**121人間をその身体に定めたる人の定めに挑み得るかは**

**パース『人間記号論の試み』**

**122同義だと人と記号を結びたるイコールの文字輝けるかも**

**123考えるプロセスがある、その外に考える我あるのではなく。**

**124ものありてものを指すのが記号なり。記号の過程が思考なりけり。**

**125思考するそのプロセスが人ならば、人は記号とパースいうなり。**

**126経験に現れるのが物ならば、物なくしては経験もなし**

**127真理とは、知りたる意識と実在が一致すること科学なるかな**

**128物ありて姿現わすそのことと思考すること一つなるかな。**